

郡市医師会長 殿

公益社団法人 宮城県医師会  
会長 佐藤和宏  
(公印省略)

### 新型コロナウイルスワクチン接種時における副作用対策について

平素は、コロナ対策に関して、ワクチン接種や発熱外来の施行に日夜従事されていることに、深く感謝申し上げます。

さて先般、愛知県のコロナワクチン集団接種会場で、アナフィラキシーショックと思われる事案が発生し、不幸な転機となったことは、すでにご承知のことと思います。集団接種会場や自院でのアナフィラキシーと思われる副作用が発生した場合の、薬品の準備、保管場所の再確認および救急車の手配などの役割分担など、念のために再度ご確認の程、よろしくお願い致します。以下詳細について記します。

### 記

1. アドレナリン製剤（ボスミン、エピネフリンなど）の在庫場所の確認、使用方法などを再確認すること。なお、ボスミンは可能ならばあらかじめ充填してある製剤を使用し、筋肉注射で行うこと。エピネフリンは、所定の場所に筋肉注射を行うこと。待機場所で体調不良の場合は、速やかに医師の診察を受け、移動せずにその場所で以上の処置を行うこと。そのほか、酸素投与、血管確保、ステロイド投与などを行い、その間に救急車の要請を速やかに行うこと。
2. 当日や最近体調不良がある方、高度の肥満で持病を複数お持ちの方、ワクチン接種や薬剤、食物などで、最近のアレルギー歴のある方など、医師が当日接種は不敵と判断した場合は、躊躇なく延期とすること。代替は、行政側などとの相談による。

以上です。愛知県での事例は、避けられない副作用だったかもしれませんが、迅速にアドレナリン製剤を筋肉に注射していればと思います。またこのような重い副作用が起こる確率は極めて低く、ワクチン接種促進が抑制される結果は避けたいと思います。どうか今一度確認していただき、コロナワクチン接種の促進に引き続きご協力をお願い申し上げます。

担当：宮城県医師会事務局 総務課

TEL：022-227-1591

FAX：022-266-1480